

沿革

■ 会社の歴史

1890(明治23)	創業者田口謙吉が大坂北浜に田口参天堂を開業
1925(大正14)	参天堂株式会社を設立
1936(昭和11)	大阪市東淀川区に淀川工場を開設
1945(昭和20)	本社を淀川工場の敷地(現本社所在地)に移転 社名を参天堂製薬株式会社に変更
1958(昭和33)	社名を現在の参天製薬株式会社に変更 医療用医薬品事業に進出
1977(昭和52)	東京・大阪証券取引所第1部に上場 容器成型と薬液充填を同時に行う「ボトルバック」 製造システムを導入
1982(昭和57)	中央研究所が竣工
1985(昭和60)	能登工場が竣工
1990(平成2)	創業100周年をむかえ長期ビジョンを策定
1993(平成5)	米国にサンテン・インクを設立
1994(平成6)	ドイツにサンテン・ゲーエムペーハーを設立
1996(平成8)	北京事務所を開設 奈良研究開発センター、滋賀工場が竣工
1997(平成9)	フィンランドの眼科薬企業スター社を買収し、 サンテン・オイを設立 台湾参天製薬股份有限公司を設立
1998(平成10)	中期構想「ひとみ21」を策定
2000(平成12)	韓国参天製薬株式会社を設立 広州事務所を開設
2001(平成13)	米国のアドバンスド・ビジョン・サイエンス・インクを 買収
2002(平成14)	患者さんの視点で開発した革新的な医療用点眼剤容器 「ディンプルボトル」を導入
2003(平成15)	2003-2005中期経営計画を策定 能登工場でISO14001を取得 医薬情報活動支援システム「SAIN(サイン)」を構築
2004(平成16)	米国でジョンソン・エンド・ジョンソンビジョン ケア・インクによる医療用眼科薬の提携販売を開始
2005(平成17)	上海事務所を開設 参天製薬(中国)有限公司を設立
2006(平成18)	2006-2010年度中期経営計画を策定
2007(平成19)	瀋陽事務所を開設 参天製薬(中国)有限公司の蘇州工場が竣工
2008(平成20)	蘇州工場が稼働、自社販売開始 奈良研究開発センター製剤開発棟、新付属棟が完成

■ 製品の歴史

創業当時	主力製品は風邪薬「ヘブリン丸」
1899(明治32)	「大学目薬」
1952(昭和27)	「大学ペニシリン目薬」
1953(昭和28)	「大学マイシリン目薬」
1954(昭和29)	「大学スーパー目薬」
1956(昭和31)	「サンテドゥ」
1962(昭和37)	散瞳点眼剤「ミドリンP」 国内初のプラスチック容器目薬「スーパーサンテ」
1963(昭和38)	自社開発の肝治療解毒剤「チオラ」
1970(昭和45)	抗生物質製剤「エコリシン」
1975(昭和50)	抗炎症点眼剤「フルメトロン」
1978(昭和53)	医療用具の販売開始
1981(昭和56)	緑内障・高眼圧症治療剤「チモプトール」
1985(昭和60)	「サンテ4ONE」
1986(昭和61)	眼内レンズの販売開始
1987(昭和62)	合成抗菌点眼剤「タリビット」 抗リウマチ剤「リマチル」
1991(平成3)	「サンテFX」
1992(平成4)	眼灌流・洗浄液「ビーエスエスプラス」 初期老人性白内障治療剤「カリーユニ」
1995(平成7)	角結膜上皮障害治療剤「ヒアレイン」 抗アレルギー剤「アレギサル」 抗リウマチ剤「アザルフィジンEN」 眼科手術補助剤「オベガンハイ」
1999(平成11)	緑内障・高眼圧症治療剤「チモプトールXE」 「サンテFXネオ」
2000(平成12)	合成抗菌点眼剤「クラビット」
2001(平成13)	緑内障・高眼圧症治療剤「デタントール」 抗アレルギー剤「リボスチン」
2002(平成14)	「サンテドゥプラス E アルファ」 「サンテ40」
2003(平成15)	フォールダブル(折りたたみ式)眼内レンズ 「クラリフレックス」
2004(平成16)	緑内障・高眼圧症治療剤「レスキュラ」 抗リウマチ剤「メトレート」
2006(平成18)	春季カタル治療剤「パビロックミニ」 「サンテメディカル10」「サンテALクールII」 「サンテうるおいコンタクトa」
2007(平成19)	
2008(平成20)	栄養補助食品「サンテルタックス」シリーズ 「サンテ40i」 眼内レンズ「エタニティー」 緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス」
2009(平成21)	「サンテFX Vプラス」

(注)当社での販売開始の年を基準に記載